

仙台西多賀病院 地域医療連携室だより vol.51

第1回 「パーキンソン病を多職種で学ぶ会」開催

3月7日、当院にて「第1回パーキンソン病を多職種で学ぶ会」が開かれました。今回の目的は「パーキンソン病に対する思い・悩みの共有」でした。周辺地域の医師、薬剤師、看護師、介護士、介護支援専門員、作業療法士など、約70名の方にお集まりいただき関心の高さが伺えました。武田院長の基調講演の後は、当院のスタッフがグループのファシリテーターとして、職種ごとに「パーキンソン病について疑問に思うこと・ケアに関する悩み」というテーマで意見交換を行いました。抱えている疑問や悩みは参加者共通ですぐに共有することができ、「わかる わかる！」と予定時間を超過するほどの盛り上がりでした。終了後のアンケートでも参加者の9割以上の方に「参加してよかった」「ぜひ次回も参加したい」という回答をいただくことができました。

今回この研修に参加することによって、地域包括ケアシステムにおいて「顔の見える連携」が非常に大切だということを改めて実感することができました。今後も院内のみならず、院外のお他職種の方との関りも大切にしながら看護を提供していきたいと思っております。

(看護部 認知症看護認定看護師 佐々木 菜央)



～仙台西多賀病院の理念～ 「良い医療を安全に、心をこめて」

HALによる ニューロ リハビリテーション

地域医療連携室長
高橋 俊明



2016年4月から保険適応となっているHAL[®] についてご紹介します。

HAL[®] はCYBERDYNE社により製造販売されている歩行のリハビリテーション用ロボットでHybrid Assistive Limb[®] の略ですがどちらも登録商標です。現時点では医療機関へのレンタルのみで利用できます。筑波大学の山海嘉之教授により発明され、国立病院機構新潟病院中島孝院長による医療機器医師主導治験により厚生労働省から承認を受けた経緯があります。HAL[®] は筋トレを行うのではなく運動学習させるものです。当院で最初にこの治療を受けた患者さまの「歩き方を思い出した」という感想がそれをよく表していると思います。当院では2016年12月に東北地方で最初に導入し、2019年3月までに延べ59名の患者さまがこの治療を受けました。ほぼ全ての患者さまで2分間の歩行距離と10mの歩行時間の改善が認められています。

保険適応となるのは脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー-マリー-トゥース病、筋ジストロフィー、遠位型ミオパチー、先天性ミオパチー、封入体筋炎の8種類の疾患です。体格は体重40～100kg、身長150～190cm程度で装着の可能な方。運動能力としては介助または歩行補助具を使うことで10m以上歩行可能な患者さまとなっていますが、運動能力は推奨ですのでこれ以外の機能の患者さまでもご相談して欲しいと考えます。当院では約1ヶ月の入院で行います。希望者には入院中、呼吸や嚥下機能などの検査やリハビリテーションも行っています。

現時点で適応疾患はすべて希少疾病のため皆様になじみがないかもしれませんが、適応となる患者さまがいらっしゃいましたら是非、地域医療連携室を通してご紹介くださいますようお願いいたします。



「在宅医療関係者との多職種連携研修会」を開催しました

平成31年2月23日(土)

平成31年2月23日(土)、当院にて、「在宅医療関係者との多職種連携研修会」を開催しました。本研修会は、宮城県地域医療介護総合確保事業の補助金を受けております。当日は、訪問看護ステーションや相談支援事業所、特別支援学校などから97名の方にご参加いただき、大変実りのある研修会となりました。

はじめに「スペシャルニーズのある子ども達の相談支援」をテーマに、社会福祉法人なのはな会 生活介護事業所こまくさ苑の施設長 遠山裕湖先生にご講演いただきました。相談支援専門員の立場から、事例を交えてとても分かりやすくお話いただき、医療との連携や家族支援の大切さについて学ぶことができました。さらに、「神経筋疾患を主とした医療的ケア児の現状と課題」をテーマに、当院リハビリテーション科 理学療法士 片山望より、排痰補助装置の使用方法や効果について講演しました。後半は、フィリップス・レスピロニクス合同会社の方々にもご協力いただき、複数のブースに分かれて実際に排痰補助装置を体験しながら理解を深めました。

今回の研修で、多職種連携の重要性を改めて理解することができ、今後の患者支援に活かしていきたいと思っております。

(医療福祉相談室 医療社会事業専門員 佐藤 詩織)



うたごえがすてきだったで賞

2月19日(火)午後、南3階ホールにて、第1回カラオケ大会が催されました。

南3階では、毎週木曜日カラオケを行っています。日頃の成果を発表しようとしてカラオケ大会を計画しました。実施に当たり南3-2病棟の大竹さんが、出場者募集のポスター、プログラム、賞状作成の他、歌っている人を大型スクリーンに映し出す方法で機材を準備するなど大きく関わってくれました。出場者は9名。得意の歌を選曲し、ドレスに着替え、それぞれのパフォーマンスと歌を披露しました。審査員を務めた患者さんと療養介助員は素敵なコメントで会を盛り上げてくれました。

(療育指導科 前主任保育士 片岡 久美子)



平成最後の新人看護師を迎えて



平成31年4月1日、平成最後となる新人看護師32名が緊張した面持ちで辞令交付式に臨み、看護師としての第一歩を踏み出しました。5日間の新人研修のうち、最後の2日間は技術研修となっており、経験豊かな教育委員会のメンバーを中心に講義・技術指導を行いました。

基礎的な看護技術の習得を目的に吸引、経管栄養、注射・採血、移乗などについて、患者さんの安全・安楽を考えて実施できるよう指導・助言を行いました。技術の中には学生時代に演習して以来ということもあり、ひとつひとつ手順・手技を確認しながら実施する姿も見られました。初めは緊張した表情が見られましたが、研修が進むにつれてそれもなく、同じグループのメンバーと助け合ったり、声を掛け合う場面が増えていきました。

新人看護師一人ひとりが様々な経験を積み、「安心と満足していただける確かな看護」を実践できるよう、仙台西多賀病院全職員で支えていきたいと思えます。

(看護部 教育担当師長 渡辺 玲)



医師の異動

①職名 氏名 ②専門領域 ③認定医 専門医 ④ひとこと



- ① 整形外科医長 小坏知明 (こあくつ ともあき)
- ② 整形外科
- ③ ・日本整形外科学会整形外科専門医
・日本整形外科学会脊椎脊髄病医
・日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医
・日本救急医学会救急科専門医

④ 16年ほど前、整形外科医としてさっぱり芽が出ず田舎に帰ろうと思っていた時に、西多賀病院に拾っていただいて脊椎外科の手ほどきを受けました。今回の異動は恩返しのお返しと思っています。宜しく願い申し上げます。

お世話になりました

平成31年3月31日付

辞職 整形外科医師 芦名 義博

着任のご挨拶



診療放射線技師長 茄子川 集

山元町の宮城病院より異動してまいりました。仙台西多賀病院は3度目、4年ぶりの勤務となります。

最新鋭のSPECT-CTも導入され、地域の皆様にも広く利用していただけるように尽力いたします。よろしくお願いいたします。



臨床検査技師長 阿部 好文

令和元年となりましたこの春、国立病院機構山形病院より仙台西多賀病院へ配置換えとなりました、臨床検査技師長の阿部と申します。

宮城県での勤務は、仙台医療センター・宮城病院そして西多賀病院で三カ所目の施設となり、宮城にとっても愛着を感じております。微力ではありますが検査科一同、常にポジティブに新しい情報技術に目を向け質の高い良い医療を、安全に心を込めて患者さまに提供できます様、頑張っ参りますので、今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。



栄養管理室長 西舘 真理

この度、4月1日付で国立病院機構福島病院から、当院栄養管理室長になりました西舘真理と申します。

微力ではありますが、武田院長先生の下、より良い医療の提供ができるように頑張っ参りますのでどうぞ宜しくお願いいたします。



療育指導室長 小関 敦

療育指導室長の小関敦と申します。

大学生の頃、仙台に住んでいましたがそれから20年余。久しぶりの仙台であり、原点に返った気がします。

患者さんと常に身近に関わり、生活が潤いのあるものになるよう、頑張っ参ります。



副看護部長 佐藤 育子

4年ぶりに仙台西多賀病院に戻ってきました。

リーダーシップ抜群の院長のもと、副看護部長として、患者さんも職員も幸せになれるように日々努力をしていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

区 分		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日		
外来担当表	整形外科	新患	古泉 豊	川原 央		山屋 誠司	国分 正一	
		再来	国分 正一	国分 正一	川原 央	古泉 豊	国分 正一	
			山屋 誠司	両角 直樹		小坏 知明 (第1・3・5週)		
		関節	新患			田村 則男	田村 則男 (第1・3・5週)	
			再来			大出 武彦		田村 則男
		せぼね・関節		須田 英明	須田 英明	須田 英明	須田 英明	
	側弯症						両角 直樹※1	
	脳神経内科	新患	馬場 徹	高橋 俊明	武田 篤	吉岡 勝	金原 禎子	
				田中 洋康		大泉 英樹		
		再来	武田 篤	吉岡 勝	武田 篤	大泉 英樹	田中 洋康	
江面 道典					高橋 俊明			金原 禎子
内 科		三浦 明	三浦 明	長崎 明男 (第2・4週)		三浦 明		
リウマチ内科			苅部 明彦 (循環器専門)※2					
小 児 科		小林 康子 (成長発達)	小林 康子	午前 小林 康子 (乳児健診・予防注射)	午前 小林 康子			
脳神経外科				午後 小林 康子 (第1・3・5週)	午後 大村 清 (小児筋神経) (第1・3・5週)			
泌尿器科		永松 謙一 (第1週)※3		東北大学医師 (第2・4週)	武弓 俊一			
遺伝カウンセリング						午後 苅部明彦または 高橋俊明※2		
もの忘れ外来 ※4		大泉 英樹	武田 篤	馬場 徹	佐久間博明	金原 禎子		
禁煙外来				武田 篤	苅部 明彦			
歯 科						佐藤 敦※5		

令和元年5月1日 現在

- ※1 脊柱側弯症の新患患者様のご紹介は、側弯症外来日（金曜）にお願い致します。
- ※2 内科火曜日の循環器専門外来及び金曜日の遺伝カウンセリング外来は完全予約制です。
- ※3 脳神経外科は主にパーキンソン病に関連した診療を行っています。
- ※4 もの忘れ外来は診療情報提供書が必須で完全予約制です。
- ※5 歯科外来は主に入院患者の診療を行っています。



独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院

〒982-8555
宮城県仙台市太白区鉤取本町2丁目11-11

- ◎電話：022-245-2111(代表)
- ◎FAX：022-243-2530
- ◎URL：http://www.nishitagahosp.jp/

地域医療連携室(直通)

- ◎電話：022-245-1810
- ◎FAX：022-245-1811

発行／仙台西多賀病院地域医療連携室
発行責任者／地域医療連携室長 高橋 俊明

※仙台地下鉄を利用して来院される場合は八木山動物公園駅または長町南駅をご利用ください。
※東北道を利用して来院される場合は仙台南ICをご利用下さい。
(東北道～山田ICまた、山田IC～東北道はご利用できません。)

